中国法制史

寺田 浩明

東京大学出版会、2018年1月、本文384頁。本体4200円＋税。

序章 伝統中国の法秩序

(本講の二つの課題 / 皇帝・紳士・民)

第一章 人と家

- 第一節 家 (日本のイエと中国の家 / 同居共財 / 家産分割)
- 第二節 人 (分形同気の血縁観 / 祖先祭祀との関係 / 女性が占める位置)
- 第三節 宗 (宗と姓 / 他宗者との関係 / 同宗者間の関係)

第二章 生業と財産

- 第一節 管業 (土地売買の頻度 / 土地契約文書 / 管業の来歴的弁証の秩序)
- 第二節 服役 (労働力提供の諸類型 / 隣接する諸形態 / 服役者層の身分的取扱い)
- 第三節 租佃 (租佃契約の基本内容 / 田主佃戸関係の諸態様 / 佃戸耕作の管業化)
- 第四節 所有権秩序の特質 (田面田底慣行 / 様々な所有対象 / 私的土地所有権の歴史的文脈)

第三章 社会関係

- 第一節 空間編成 (村落共同体論への疑問 / 標準市場圏 / 空間的統合の各段階)
- 第二節 社会的結合 (持ち寄り関係 / 一体的な結集 / 両方式の関係)

第四章 秩序・紛争・訴訟

- 第一節 社会秩序の考え方 (生の利益主張の横溢 / 権利と事実の間 / 秩序形成の道筋)
- 第二節 紛争とその解決 (喧嘩とその仲裁 / 有力者に「投ずる」 / 打官司の具体像)
- 第三節 国家裁判機構の概要 (国家裁判所全体の構成 / 州県衙門の人的構成 / 裁判の種類)

第五章 聴訟——裁判と判決の社会的基礎

- 第一節 聴訟の展開過程1: 標準的展開 (州県档案 / 開廷まで / 裁判の実際)
- 第二節 聴訟の展開過程2: 付随的な諸展開 (和解と取り下げ / 上控・蒸し返し・重案への転化 / 聴訟が持つ多面的性格)
- 第三節 聴訟の規範的構造 (情理の説諭 / 説得と納得の均衡点 / 情理と真相 / 正義の内実)
- 第四節 ルール型の法と公論型の法 (法の形の違い / 法と裁判の二類型 / 社会の捉え方)

第六章 断罪——犯罪の処罰と判決の統一

- 第一節 命盗重案の処理1: 州県が行う作業 (命案の初動対応 / 州県衙門における審理 / 選択の場としての州県法廷 / 擬罪と上申)
- 第二節 命盗重案の処理2: 覆審の過程 (覆審の内実 / 秋審 / 権宜の処置)
- 第三節 律例とその働き方 (律例の由来と内容 / 律例の使われ方 / 律例に従う判断と律外の判断)
- 第四節 成案の扱い (成案の援引禁止 / 成案の事実的な参照 / 実務における参照対象の全体像)
- 第五節 判決の基礎付けと判決の統一 (現代裁判における量刑実務 / 「基礎付け」と「事例参照」 / 裁判実務における両次元の混淆)

第七章 法・権力・社会

- 第一節 法内容を語る場所 (習律・裁判・権利 / 判決が総体として持つ規則性 / 法の在処)
- 第二節 心中にある法の社会的共有 (自明の理とローカルな理 / 共有状態の事実性 / 相場としての法)
- 第三節 社会と権力 (民間における規範定立 / 主唱と唱和 / 国家と社会)

第八章 伝統中国法と近代法

- 第一節 人間関係と制度的関係 (伝統中国における契約 / 西洋前近代における契約 / 近代法の歴史的位
- 第二節 中国と近代法 (近代法導入の歴史的文脈 / 現代中国における法と国家 / 伝統法と近代法)

終章 文明を跨いだ法の語り方

(比較法制史学の為の法概念 / 日本法に対する問い)